

会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 22年 11月 25日(木曜日)	開催時刻	13時 30分から 16時 30分
会議名	丸子地域協議会(平成 22年度第 8回)		
出席委員	齊藤会長、北村副会長、生田委員、池内委員、上原委員、内田委員、上坂委員、佐藤委員、清水委員、関委員、滝沢委員、成澤委員、松山委員、丸山委員、宮下委員、村松委員、山越委員、横山委員 【欠席】倉沢委員、中澤委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、中山センター次長兼地域振興課長、関尾市民生活課長、松井健康福祉課長、矢島産業観光課長、小相沢建設課長、小林消防課長、松村上下水道課長、下村学校教育課長、竹内社会教育課長、高野丸子学校給食センター長、山本生活環境課長補佐、市川市民サービス担当係長、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場		

会議次第

1 開会(中山センター次長)

- ・配布資料の確認、欠席委員の報告

2 あいさつ(齊藤会長)

本日は、地域まちづくり方針の 4から 7について重点的に御意見を頂戴したいと思います。よろしく申し上げます。

3 報告

(1) 旧カネボウ食堂棟活用検討専門部会の検討結果報告書について(村松部会長)

- ・検討結果報告書により詳細説明。
- ・内容を良く確認いただき、次回の協議会で意見交換をお願いしたい。

資料 3: 旧カネボウ食堂棟活用検討専門部会検討結果報告書

別紙資料: 旧カネボウ食堂棟の活用に関するアンケート調査報告書

(2) 環境保全型防犯灯の設置に対する補助事業について(生活環境課、市民生活課)

(生活環境課)・防犯灯の LED化については、平成 19年頃から調査を始め、今年度実施計画に上げて、採用となった。

・現在は計画段階であり、まだ予算化されていないが、補助事業化される方向で協議が進んでいる。

・資料 1に基づき、LED 防犯灯の現状、LED 補助に切り換えた場合の補助金の概要、補助申請について説明

(市民生活課長)

・補助制度改正後の丸子地域における地域予算による補助金について説明

・改修(LED 照明交換)は、限度額 2万円まで補助をしていきたい。一般の補助制度では 15000円の限度額ですが、丸子地域では地域予算 5000円を上乗せして、限度額 2万円となるように現在予算要求している。

・今後の設置見通しについては、23年度 20%、24年度 20%、25年度 10%で、2,300基の半分を地域予算で対応していきたいという計画。

資料 1：環境保全型防犯灯の設置に対する補助事業、LED 防犯灯の補助申請について

主な質疑・意見の内容

（委員）地域協議会の意見書を含め、発展的に採択の方向であること、地域予算で補完される部分があるという話で、全体的に大変良いお話をいただけたと思っている。

（委員）防犯灯のLED化に関して、先進的な県内他市では全額市で負担しているところもあるのに、なぜ上田市ではできないのか。段階的に全体の50%、とにかく半分をやっていこうとする意気込みは高く評価するが、やはり計画として100%を目指すべきではないか。改良の余地があるということで控えめな回答だと思うが、もう少し大きな見地から100%を目指していただきたい。

（生活環境課）先進的な県内他市の例では、全ての防犯灯をLED化したわけではなく、ほんの一部だけ。国か県の補助金を利用してLED化を図ったということ。電気料等は自治会持ちであり、維持管理は自治会や区長の持ち分と聞いている。県内でも設置が始まったということをお示しした資料として御理解いただきたい。

（市民生活課長）確かに100%できれば完璧だと考えるが、補助制度ができた中で15,000円の10/10補助するというのが最前提。さらに5,000円を出すということで、丸子では地域予算を使うという考え方。一つは時間的な経過を考慮すると、3年位後の設置費等がどうなるのか不明な部分がある。100%という話は、今ここで結論を出せる話ではないので、委員さんの御意見として受け止めさせていただきたい。

（委員）先進的な県内他市では、どのくらい設置されていてどんな内容なのか。

（生活環境課）資料がなく自治体に問い合わせなければわからない。今ここではお答えできかねる。

（会長）答えを求めてもここではでないと思うので、要望という形であげていただければと思う。

（委員）丸子地域協議会で、地域予算を使って丸子地域が先進的にやってもいいのではないかと、そのために地域予算を使ってもいいのではないかとということをお願いしたが、このことについての地域予算の使い方には疑問があるというようなお答えだった。今回、5,000円が地域予算の中から出るということで、決して悪いことではない、ありがたいことだと思う。今まで地域予算をなかなか使えない状況であったが、今回はある意味突破口を開いたことになると思う。LED防犯灯の補助申請については、業者の方から資料を出していただく方法により、各自治会が皆同じ書類をあげる必要はないのではないかと、できれば省略できないかという提案をしたい。

（生活環境課）業者からの書類提出という提案については、あくまで自治会の方から業者に頼んで設置してもらうものなので、直接市へ申請書を出していただく形はとれない。書類によって安全面を見たいということは、自治会も市も同じ。どれだけ寿命が持つか。そういう保証ができないので、業者もそれを心得て書類を作成してもらいたいということ。業者から市へ直接出せばいいという御意見は不可能。あくまでも自治会が業者に頼み、業者が自治会を介して申請していただくものである。

（委員）申請のルール、考え方からすると確かにそうだと思うが、各自治会において、殆

どの自治会が新設の要望を来年度出すはずで、何百基となる。出てくる書類は、殆ど似たようなものが各自治会から出てきて、市へ集まってくるということになると思う。初年度はお互いの勉強のためにつけてもらってもいいと思うが、将来的には、日本電球工業会がどの程度の規格を持っているかわからないが、ある程度の規格を通っていただければいい、資源の節約にもなる、市の倉庫もいっぱいになることもない、その辺を考えていただきたい。

(委員) 集落の戸数が少なく、財政面で厳しい自治会もあると思うが、自治会によって格差が出ることはないか。

(センター長) 丸子地域については、50%までは自治会の負担なしにやっていきたいと思います。地域予算については、使わせてもらうように予算要求していく。地域格差については、交換の場合にはすでにある防犯灯の蛍光灯を自治会の電気料負担軽減のためということと、1基あたり丸子地域以外5000円かかるとすると、1年で336円安くなるという試算で15、6年かかるが、安くはなるから5000円かけて交換してもいいと判断するか、15、6年かかるならうちは我慢しておくか、それは自治会の判断だと思う。既存の蛍光灯を換えるということなので、委員が御心配される格差という事は直接的にはつながらないと思っている。

(委員) 上田市で平成21年から22年にテスト的に設置された13基は、全て補助金等で設置されたのだと思うが、これが今回の電気料と敷設のための費用等の算出された根拠となっているのか。

(生活環境課) 平成21年度からの補助申請で確認できたのが13基。その申請書から、どのくらいの費用で設置できるのかを確認した。資料は、電柱式の13基しかなかった。

(委員) LEDの13基はテストケースとして上田市がやったのかと思った。一番難しいのは、この地域協議会で決定した話と回答とがずいぶん違うということ。少しでも努力していただき、なんとかこれを地域予算の要望として通していただけたら非常にありがたいと思っている。今、地域協議会で頑張っている色々なことを協議しているが、今後の地域協議会に対して丸子地区全体または上田市全体が地域協議会は何のために存在しているのかという形になるのは非常に残念。補助金プラス5000円、金額に対していいかどうかは別にして、是非とも成功させていただきたい。また、地域性を考えて進めていただきたい。

(市民生活課長) しっかりやらせていただきますので、御協力よろしく申し上げます。

4 議題

(1) 第1次上田市総合計画 地域まちづくり方針の見直しについて(事務局)

- ・前回の協議会での意見をもとに、検討資料(評価シート)を修正。
- ・担当課所見欄を設け、実施した事業、進捗状況を補足する内容などを追記。
- ・各項目について担当課による補足説明後、質問や意見、取り組みの方向性について議論

資料2: 地域まちづくり方針評価シート(1~7項目)
別紙資料: 平成20年度 長野県森林づくり県民税活用事業

主な質疑・意見の内容

【まちづくり方針番号 4】【生涯学習活動拠点の充実と新図書館の整備】

(委員) 文化会館の利用度が高いと聞いている。今後、交流文化施設ができる中で、文化会館との棲み分けをどう考えているか。

(社会教育課長) 丸子文化会館は、上田市全体の中から見ると南に位置している。また、

舞台は県民文化会館に次いで広く非常に使いやすいが、客席数 800 で興行するという一方で、お金の面やお客さんの面で非常に制約を受けている。上田市の文化施設としては、丸子文化会館を代表して使っていくわけではない。文化交流施設については、上田市全体の中であれだけの施設はないとやっていけないという部分がある。客席のキャパからみると、丸子文化会館は 800 席、上田創造館、真田文化会館、上田文化会館は 500 席、音楽村は 300 席（野外は別）で、それぞれ客席数が違う。利用状況からも、施設の使い分けができ、棲み分けもできるだろうと考えている。丸子文化会館は、県外の色々な団体のイベント利用や、長和町や立科町からの利用者も増えている。

（委員）これまでやってきた事業は、引続き文化会館の事業としてやっていくという考え方でよいか。

（社会教育課長）例えば、演歌公演などは公演料だけで 750 万、諸経費、宣伝費、会場費等入れると約 950 万円かかる。席数が 1,000 席だとすると、一人 9,500 円いただかなければ採算がとれない。丸子文化会館は 800 席なので、単純に一人当たりの計算をすると 10,000 円を超える。市の税金を多く使わなければ丸子文化会館での公演はできないが、文化会館の事業は内容を良く精査し、引続き継続していく。

（委員）催しの企画等はどのように事務が行われているのか。丸子地域で自主的に企画しているのか。建物の大きさなどに見合った形でやっているのか。希望とすれば国内の管弦楽団などを呼んでほしい。

（社会教育課長）企画の大多数は職員が独自に行っている。また、音楽村との調整もしている。民間でできるものはできるだけ民間で行い、行政でやるものについては、なかなか利益の上がないものを選択している。オーケストラのようなものは普通に呼んだらまず利益は上がらない。こういうものについては、宝くじ財団の助成などの補助を受けるなどの工夫をして公演を行っている。公演者を選択する際には、政治的配慮は一切ない。文化的に本当に良いものをいかに安く、市民の皆様方に提供できるかという観点で組んでいる。行政としては、地域の皆様に良い音楽や良い寄席などをできるだけ多く提供していきたいと考えている。

（委員）信州国際音楽村の研修施設は特有の使用目的があるのか。どんな利用状況か。また、文化会館や公民館との使い分けはどうなっているか。

（社会教育課長）音楽村は市から指定管理をお願いしており、運営等は財団法人信州国際音楽村で行っている。音楽村の中には、ホールこだまと生涯学習の里研修センターの研修ホールの大きく分けて 2 施設がある。21 年度の利用状況は、ホールこだまは 25,665 人、研修センターは 19,950 人で、県内の研修施設の中ではダントツに多い数字となっている。

（委員）上田市の施設としての利用のあり方をどのように考えているか。

（社会教育課長）信州国際音楽村については、名称に“国際”と付いているように市内からも市外からもたくさん利用されている。対外的に上田市を PR する、そういう意味合いを持っている。ここだけは、丸子の施設として性格的に違う部分であると思っている。

（委員）自主事業については、素晴らしい事業が多いので積極的に進めたいと思っている。文化会館や音楽村はそれぞれが別々に自主事業をやっているイメージが強いが、丸子文化会館・公民館・音楽村が一体感を持った形とは具体的にどういうことか。また、丸子図書館等建設が進められているが、緊急避難場所としての想定や耐震を含めた計画や造り方をしているか。丸子地域の緊急避難場所の必要数はどの程度か。また、現状を

教えていただきたい。

(社会教育課長)例えば、信州ルネッサンスは市と音楽村が共同開催している事業である。音楽村の施設改修は、全て市が直営で行っている。密接なつながりを持ち、職員とも連絡を取りながらやっている。図書館の耐震については、基準をクリアしている。

(委員)緊急避難用の場所として旧カネボウ食堂棟を位置づけたいという話があったが、すぐ近くに図書館も作るわけで、緊急避難用の場所として、どの程度地域のニーズがあると考えているか、それが満たされるのか、見込みも含め知りたかった。

(センター次長)緊急避難場所については、既に場所の指定をしてある所がある。ただ今回は、芝生のベルパークができ、病院ができる。食堂棟や給食センターがあるというようなことで、そういった所も緊急時に対応するというような考え方で、全体的に緊急避難場所が充足されているか不足しているかを含め、今後調査をして報告したい。

(委員)博物館の法登録を外し、活用を図っていく中で、生涯学習活動拠点としてのくくりの中で、博物館の利用度を高めるといえるのかどうか。

(社会教育課長)ここで謳っているのは、主に文化面で、生涯学習社会教育活動には、実際広い分野がある。例えば、公民館・スポーツ施設・博物館・図書館、これらはそれぞれ独自の分野であり、それぞれが皆特長を持っている。その中で、特に重点的なものが文化会館と音楽村となる。

【まちづくり方針番号 5】【可能性を秘めた雇用・居住・福祉の拠点整備】

(委員)子育てサロン利用者の声(要望・希望等)は把握しているか。

(健康福祉課長)子育てサロン利用者へのアンケート調査は毎年行っている。先般行った調査結果では、利用日数についての問いに、日数を増やして欲しいが半分、現状のままでもいいが半分。また、現在の開設時間は9時半から2時半までだが、時間はどうですかという問いには、今のままでいいというお話をいただいている。子育てサロンには、遊具や図書が置いてあるが、できるだけ多くの本を置いて欲しいといった御意見もある。子育てサロンのそばには、子育て支援センター、中丸子保育園がある。こちらは、月曜日から金曜日、土曜日は半日ということに来ていただける場所も設定をされている。利用者の皆さんからは、常日頃から色々な声を聞いていきたいと思っている。

(委員)スペース的な要望は出ているか。

(健康福祉課長)子育てサロンについては、小さなお子さんがゆっくり休める場所のスペース、もう少し大きいお子さんが少し動ける場所、本を読んだりできる場所ということで、大きく3つくらいに分けて利用者が利用できる。これは、支援センターにあるひろば事業として使う中ではとても特色があり、色々なお子さんの年齢や性格、またお母さんがどちらにいいのかなと十分選択できる場所としてひろば事業ができています。スペース的には、現在のところ、特にもう少し広くというような要望はいただけていない。

(委員)子育てサロンには、庭がなく、水遊びや外遊びが難しい。車が来ない裏側の所に庭を造っていただけませんか。今後の利用者のためにも検討いただきたい。

(健康福祉課長)子育てサロンのお母さん方は、お昼を過ぎると中丸子保育園がお昼寝時間で園庭開放になるということで、そちらの庭を利用している。そのような形で近隣施設等と連携をとりながら進めさせていただいている。少しでも遊べる場所ということについては、他の施設と絡みもあるので、十分検討させていただきたい。

(委員) 高齢者福祉施設の特養・養護には、丸子地域としてそれぞれ何名が入れるか。宅老は何名入れるか。どれくらいの施設があるのか。

(健康福祉課長) 養護老人ホームは、措置ということで市が入所決定をするので、現在丸子地域の方が全員で何人、どこの施設にいるかという人数は把握できるので、また次回報告させていただきたい。特別養護老人ホームは、以前は措置ということですぐに何名と申し上げることができたが、今は介護保険の施設ということで、申請者(介護保険の利用者)と施設の契約ということになっており、丸子地域の方が何名どこの施設、どの程度いるのかということが把握できない状況であることは御理解いただきたい。また、施設の場合、複数の施設を申し込まれることもあり、待機者の現状把握についても少し厳しい状況である。カネボウ跡地に移転をしているベルポート、もとは徳寿荘・陽寿荘が移転してきたが、例えば、ベルポート東(特養)は、旧丸子町出身の方が33%くらいの方が入所されている。市で入所決定をしているベルポート西(養護)は、旧丸子町の方が30名、全体の46%の方が入所されている。現在、丸子地域の皆さんの老人ホーム全体でどのくらいかということについては把握していないので、次回に報告させていただきたい。

(委員) 日帰りや泊りがけの宅老が丸子地域のあちこちにあるように見受けられるが、どの程度なのか。

(健康福祉課長) 丸子地域にある宅老(サービス)について、利用者が何名であるか把握していないので、確認をしたうえで次回に報告させていただきたい。

【まちづくり方針番号 6】【未来型産業の振興と起業マインドの育成】

(委員) 産業振興の取組みとして、具体的にどんな成果が上がったか。

(産業観光課長) 成果はすぐに出るものではないと考えている。最近の状況としては、今までに経験したことのない経済状況になっているということで、あらゆる手を使い各企業と連携を取っていききたい。情報共有や情報交換は、上田市全体で行うのはもとより、今は坂城・上田・東御といった広域連携という中で情報交換や展示会、チーム事業などを進めている。すぐに結果が出るという状況ではないということで御理解いただきたい。

(委員) 神の倉工業団地への企業誘致活動について、厳しい状況にある中で、今まで以上に上田市全体で連携をとっていただきたい。

(産業観光課長) 神の倉工業団地は残りの面積約2万坪が現在販売中である。厳しい経済状況の中、丸子地域の企業の皆様には本当に頑張ってもらっていると実感しており、市としても企業間連携に貢献していきたい。

(委員) 成果はそう簡単には出るものではないという意見には同感できる。この資料を見た限りでは、どんな展望なのかを読み取りづらい。例えば、産学官連携についてのことが書かれているが、具体的な将来展望という点で、そういう取組みが実際に行われているのであれば、将来の希望が出てくるが、それがここから読みとれない内容になっている。できるだけ具体的に読み取れるように、是非今後の中で改善していただきたい。神の倉の企業誘致については、ダイレクトメールを送付するなど、色々工夫されているということで、やはりそういう活動には魅力や創造力が非常に重要になると思う。どんなことをPRの一番の柱にしているか。産学官連携については、丸子地域が単独でやろうとするとなかなか成果が上がらないということがあるので、できるだけ多角的に大きな範囲でやっていただきたい。また、丸子地域で具体的に連携している事例があったらコメントいただきたい。

(産業観光課長) 神の倉工業団地については、東御インターから近い、アクセス道路に近いということを謳い文句としている。また、周りに住居が無く、ビューラインからの接続が良く、企業専用のエリアということで整備をしている状況。ARECについては、現在企業数は約200社近くで、丸子地域からは10数社が参加をしている。専属のコーディネーターの方にお出でいただき、各企業の技術相談等を行っている。

【まちづくり方針番号 7】【自然環境の保全と人々が共生できる地域づくり】

(委員) 昔と比べると、だいが山林が酷い状態になっていると思う。特に、私有林に殆ど手が入っていないという状況がある。なんとか地主さんの了解をもらい、一定程度の面積を一括で間伐等をやっていただきたい。森林税を利用して事業が順調に推移しているということだが、森林税利用が順調に進んでいるということか。あるいは森林自体を見て、順調に手が入っているということか。特に、私有林についての現況を教えてほしい。また、私有林に手を入れる際の申請手続き等について知りたい。そういったことは、公に知らせてしっかり手をあげてもらった方がいいと思うが、広報はどのようにされているか。

(産業観光課長) 森林づくり県民税のパンフレットを御覧いただきたい。みんなで支える森林づくり事業ということで、活用事業1の右側の地図、赤く色塗りをした所が地域ぐるみで同意等の取りまとめをお願いしたところで、この部分については、間伐実行というみんなで支える里山整備事業を該当させていきたいということ。事業主体は市町村、森林組合、NPO法人等。上田市は、森林組合が窓口になっているので、森林組合で地元との調整をし、申請等の業務についても森林組合が相談に乗る形になっている。面積的には、対象森林が1haかつ3人以上、補助率9/10ということ。右上の活用事業2 市町村支援というものがある。森林づくり推進支援金交付額10/10ということで、この分で1/10をここに充て、この事業を上田市が進めているという状況。税金に関する内容は、担当課でないのとわからないので、次回報告させていただきたい。

(委員) 私有林については、市が丸子地域全体を捉えて、手を入れなければ、そういったことまで手がまわらないことなのか。あるいは、地主や自治会のある場所で手をあげないといけないのか。もしそういうことであるとすると、もっと広く知らしめて積極的に進める必要があると思う。予算の関係もあるだろうが、なるべくたくさんの方がそういったことに関心を持ち、森林づくりが進むようなしくみをお願いいただきたい。

(産業観光課長) パンフレットの最後のページを御覧いただきたい。森林づくり県民税の仕組みということで個人の欄、課税期間と書いてあるが、平成24年度分までということになっており、県の方は24年度分まではいけるのだろうということ。国が補助金を出しているが、その国の方が今ははっきりとわからないという状況。先日も長野県の各上小の市町村が集まり内容を確認したところが、25年度分については、はっきりとした見通しができない。県の方としても、国の補助がなくなると、県の資金、事業費だけではこの事業は進めることができるかどうかわからないというような答えをいただいている。市でも、これから先10年この事業が続くのであればPRもしっかりできるが、25年度以降ははっきりわからない状態の中で、なかなか各地域でPRできないというのが実情。そのことを御理解いただきたい。

(委員) 地域ぐるみで子どもたちを守り育てる環境づくり、地域が一体感のもてるコミュニティづくりを進めるためには、自治会との協働が欠かせないと思うが、具体的な事業は

どんなことが考えられるか。

(地域振興課長) わがまち魅力アップ応援事業の中の個性あるふるさとづくり応援事業。これは自治会の申請を受けての事業で、こういった事業を進める中で、地域の一体感の醸成を図っていければと思っている。また、個人団体の特色あるまちづくり応援事業等の実施についても、必然的に地域全体の醸成ないし交流促進というようなことが行われたということだった。また、昨年実績報告会を開いて色々とお聞きすると、自治会と地域の市民の皆さんが地域の現状を見つめ直しながら、地域のまちづくりを自らの手で進めるというような機運が徐々に醸成されてきたと実感している。こういったことで、今後も一体感の醸成を図って参りたい。

(委員) ふるさとづくり事業のやり方に関して、自治会の力を高めるということも含め、予算だけでなく機能面での強化も是非検討していただきたい。地域ぐるみで子どもたちを守り育てる環境づくりについて、先ほどカネボウ跡地での拠点としての話があったが、各地域における、子育てサロンの活性化等も含め、特に力を入れている事業等があったら教えていただきたい。

(健康福祉課長) 子育て支援に対する色々な事業というのは、市全体では上田市未来っ子ががやきプランの中の次世代育成支援行動計画(後期行動計画)。この中で全体事業等を組み、それぞれ子育て団体の皆さんと共に進める事業、企業の皆さんにも入っていただき進める事業、ということで市全体の事業は進めていこうと、計画が今年度から後期の分がスタートしている。丸子地域においては、具体的にこの地域ではこういった事業を進めようという計画は、現在のところ無い状況ではある。ただ、子育てサロンやひろば事業の中に、少しでも地域の皆さんに関わっていただき、それをまた、自分の生活の場へ持ち帰っていただくということを今後考えていかねばいいなというのが、今の私どもの考え。具体的なことはまとまっていないというのが実情である。

(委員) 依田川ウォーキング道路整備事業は、当初の計画が完成したので事業として終わりという感じにとれる。依田川の堤防道路は、多くの人が歩いていて非常に有効な施設になっているように思う。確かに、セレスホールから丸子橋辺りまでは非常に道路が良くなっているが、まだ歩きにくい所、まだ完全に整備されたとはいえないような所、安全柵がなく暗い時には危険だなと思えるような所もある。当初の計画がどのようなもので、それがどういうことで完成したのかわからないが、是非整備については、もっと歩く人が安全にウォーキングできるように計画的に整備をお願いしたい。提案として、わがまち魅力アップ応援事業や個性あるふるさとづくり応援事業で、この丸子地域でも、例えば樹木や花を植えるなど各地域の共通的な事業がいくつか行われてきている。センターが先導役になって、各地域のそういう活動のネットワークをつくっていってもらうような方向への活動の展開がそろそろあってもいいのではないかと思う。

(丸子建設課長) 堤防道路については、当初殆ど歩道の体を成していない状況であり、そこが順次やっとながってきたということ。完成といってもつながったという状況で、安全かという点も疑問の点もある。地元の皆さんと連携を取りながら安全性の確保など、随時整備をしていきたいと考えている。

(地域振興課長) 地域応援の事業に関しては、確かに連携などを視野に入れた展開が必要な時期に入ったと思っている。申請をいただいた際に、もう少し私どもの方で今までより一歩踏み込んで、さらに申請内容について、こういう事業をするならば、もっとこういう

方面での取り組みはどうか等、一緒に考え話し合っていかなければならないと思う。ネットワークサービスということで、21年度についても、他の地域協議会にはないような報告会をやりながら、事業に参加している皆さんに、他の皆さんがそれぞれどんなことをしているかを見ていただきながら、勉強していただきながら、それぞれ切磋琢磨していただいているという状況になっている。本日、貴重な提案をいただいたので、そういった延長線上で、同じような事業をやっている地域のネットワークを真剣に検討していきたいと思う。

5 その他

(1)次回会議の開催日について（事務局）

- ・ 第9回丸子地域協議会 平成22年12月16日（木曜日）13時30分から
丸子地域自治センター4階 講堂

(2)その他

- ・ 市議会議員、自治会役員の皆さんとの懇談会について
- ・ 12月2日、丸子・武石地域の「人権の集い」に是非ご参加いただきたい。

6 閉会 16:30